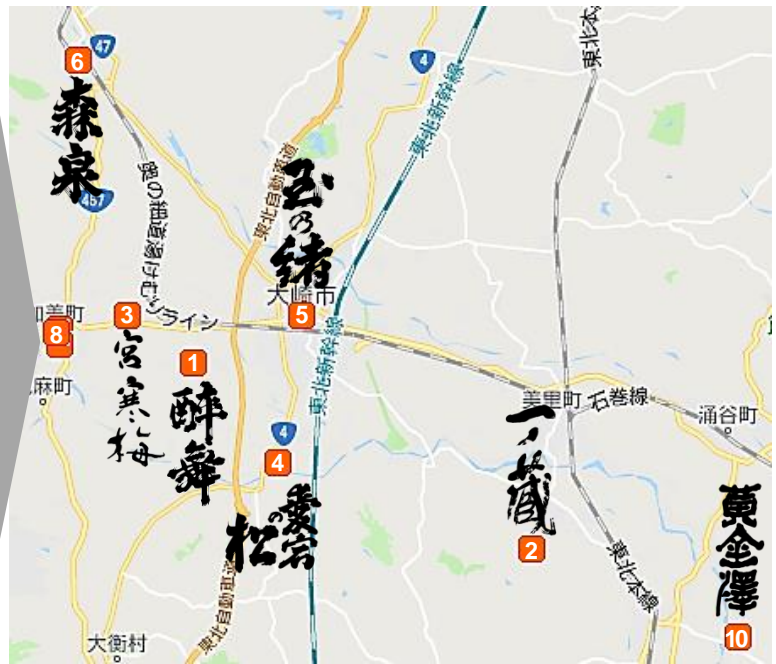




地図：Google



会社名	主な銘柄	所在地	連絡先
1 株式会社浅勘酒造店	酔舞	大崎市古川矢目字北谷地87	0229(26)2255
2 株式会社一ノ蔵	一ノ蔵	大崎市松山千石字大樺14	0229(55)3322
3 合名会社寒梅酒造	宮寒梅	大崎市古川柏崎字境田15	0229(26)2037
4 株式会社新澤醸造店	愛宕の松・伯樂星	大崎市三本木字北町63	0229(52)3002
5 橋平酒造店	玉乃緒・をだえの橋	大崎市古川七日町3-10	0229(22)0335
6 森民酒造店	森泉	大崎市岩出山字上川原町15	0229(72)1010
7 株式会社田中酒造店	真鶴	加美郡加美町字西町88-1	0229(63)3005
8 株式会社山和酒造店	わしが國・山和	加美郡加美町字南町109-1	0229(63)3017
9 株式会社中勇酒造店	天上夢幻	加美郡加美町字南町166	0229(63)2018
10 合名会社川敬商店	黄金澤	遠田郡美里町二郷字高玉6-7	0229(58)0333

○宮城県酒造組合HP (<https://miyagisake.jp/>)に上の酒蔵の紹介（一部除く）掲載がされています。

## 政宗公が生み、大崎耕土の水と米と人が育んだ酒づくり

大崎耕土の「巧みな水管理システム」の原形は、伊達政宗公が1591年（天正19年）岩手沢（大崎市岩出山）城に入城し、統治が始まった中世末から近世にかけて作り上げられました。伊達氏は、江戸時代初期に、野谷地や湿地において新田開発をすすめるため、取水堰、隧道・潜穴、農業用排水路、ため池をつくり上げました。

伊達政宗公は岩出山に移封された時に、米沢から「伊達御供」と呼ばれた商人達を伴っており、その中の麴屋を現在の岩出山荒町に移住させました。当時、岩出山の「名取屋」が伊達政宗公に料理酒を献上していたとの記録も残っており、江戸初期には岩出山において酒づくりが始まっていたと考えられています。

江戸時代後期になり、現存する酒造業者としては大崎地域で最初となる株式会社田中酒造（加美町）が創業され、その後明治・大正時代にかけて、大崎地域には多くの酒造業者が創業しました。現在では、鳴瀬川、江合川などの大崎耕土を形づくった河川に沿って10の酒造会社があり、奥羽山脈を源とする伏流水を活かした酒づくりが営まれています。

これらの酒造会社では、長年地元で栽培された米を原料とした酒づくりが行われてきました。現在でも「ひとめぼれ」「ササニシキ」「ささ結」などの飯米を使った日本酒も多く醸されており、醸造技術の向上により全国新酒鑑評会で金賞を受賞するなど、高い評価を得ています。